

平成 29 年度兵庫県災害廃棄物対策研修

実施方法

- 2 部制で実施（第 1 部：講演&ワークショップ 第 2 部：状況付与型図上演習）
 （ねらい）第 1 部で基本的な知識を習得。図上演習での確な判断ができるようにする。
 第 2 部の図上演習で、グループ内での議論や振り返りの時間を十分に確保する。

テーマ

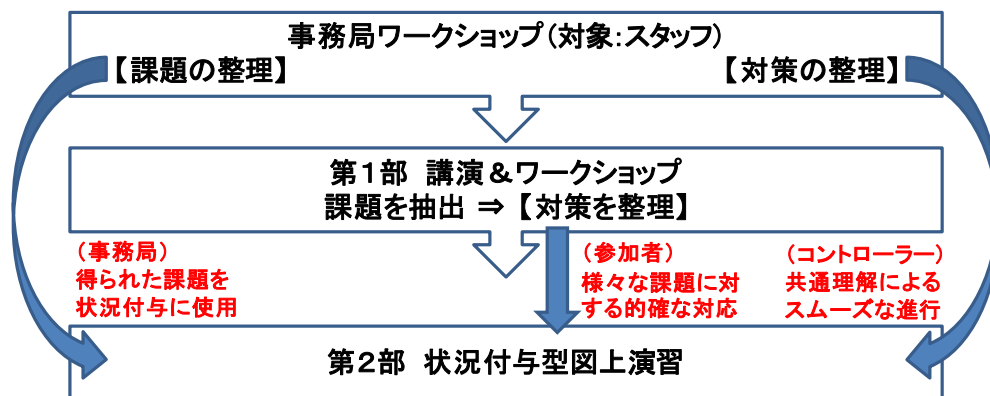
「一次仮置場」にテーマを絞って実施

（理由）阪神淡路大震災の時と異なり、未利用の埋立地が少ないため、仮置場の確保が困難
 仮置場では、開設から管理・運営、原状復旧まで様々な課題が発生

目標

- 仮置場を適切に開設、運営・管理するためには「仮置場候補地の選定」等、事前の準備と迅速かつ的確な広報が必要であることを再確認
- 研修後に全市町が災害廃棄物処理計画の策定スケジュールを検討
- 県職員は、能動的に状況を把握し、市町間の調整を円滑に行えるようになる。

研修の全体像



プログラム等

【第 1 部】

日時 H29 年 10 月 30 日(月)11:00～16:30
 場所 兵庫県立のじぎく会館 大ホール
 参加者 74 名（うち研修者 35 名）

時間	プログラム
11:00～11:05	開会あいさつ
11:05～12:00	講演『阿蘇市における災害等廃棄物処理事業について』（阿蘇市）
13:00～13:25	『研修の目的と進め方』（兵庫県）
13:25～13:35	役割決定とアイスブレイク
13:35～14:50	グループワーク①『一次仮置場に関する課題について』
15:00～16:15	グループワーク②『課題に対する対策について』
16:15～16:20	講評(国立環境研究所)
16:20～16:25	事務連絡
16:25～16:30	閉会あいさつ

【第 2 部】

日時 H29 年 11 月 20 日(月)10:00～17:00
 場所 兵庫県中央労働センター 大ホール
 参加者 74 名（うち研修者 34 名）

時間	プログラム
10:00～10:10	開会あいさつ、資料確認等
10:10～10:50	講演『災害廃棄物初動対応の要点』（国立環境研究所）
10:50～11:30	『本日の演習の想定と手順について』（兵庫県）
11:30～12:00	作戦タイム(資料読み込み等)
13:00～13:50	図上演習前半(発災後2、3日目)
13:50～14:05	途中コメント(国立環境研究所)
14:05～15:15	図上演習前半(発災後5、7日目) 記者発表用資料作成
15:25～16:10	記者発表&質疑
16:10～16:55	振り返り、講評(国立環境研究所)
16:55～17:00	閉会あいさつ

研修の様子



第1部 阿蘇市による講演



第1部 ワークショップ



第2部 国環研による講演



第2部 図上演習



第2部 記者発表スタイルによる発表



第2部 グループで振り返り

課題

- 小規模市町の参加が少ない。
- 参加者の土地勘を活かしきれていない。
- 状況付与が多すぎて、グループ内での議論と振り返りの時間を十分に確保できていない。
- 産廃協会等、関係団体との連携がない。

平成 29 年度兵庫県災害廃棄物対策研究会

背 景

- 阪神・淡路大震災から 20 年以上が経過し、仮置場の確保が困難になるなど、新たな課題が生じてきている。
- 災害廃棄物処理相互応援協定締結から 10 年以上が経過し、新たな課題に対応するため、協定の見直しの検討が必要である。

目 的

県、市町、一部事務組合で連携を深め、迅速に災害廃棄物を処理できる体制を構築する。

対 象

役職、年齢、経験年数にとらわれず、自由な雰囲気の中で、率直な意見交換や議論を希望する災害廃棄物処理関係者(任意参加)

進め方

